

## 倒錯なのか、平常心なのか…木村了子、「男子」への視線

山下 裕二

木村了子から、今回、北京の三瀧画廊 (Mizuma & One Garely) で展示される予定の作品画像を見せてもらった。「鰐虎図」——もちろん、東アジア絵画史における定番中の定番の画題、「龍虎図」をひねったタイトルである。制作途上の画像を記録したファイルには、丹念な下図が一對と、片方の「虎図」六曲屏風一隻の、ほぼ完成した画像が収めてあった。

下図は水墨のみ。背景の竹や岩、水流などは、まるで室町時代の狩野派<sup>[1]</sup>みたいに、ことさらコンサバなスタイルで描かれているが、そこに、虎と肩を組むターザンがいる。この人物を象る描線も、実はかなり慎重で、彼女がこの意表を突く登場人物を描きながら、じっくり筆を運んだことがわかる。きっと、日本や中国の古い水墨画に関する私の著書のいくばくかも、参考にしたのだろう。

で、その下図をもとにできあがるはずの六曲屏風には、全面に銀箔が貼られ、虎の右目(左目は瞑っている)にはビビッドな青の、鼻、口にはピンクの彩色が施されている。顔料、あるいは染料は何なんだろう？

そして、ことさらイケメンっぽく描かれるターザンの肉体は均質な輪郭線で括られて、きわめてフラットな彩色が施されている。私は、屏風仕立てになったものの画像はこの「虎図」の方しか見ていないが、お気楽なサーフィンに興じているような「鰐図」の方には、

さらにさまざまな趣向が加えられるだろう。完成作を見るのが楽しみだ。木村了子、がんばれ…。

彼女のことを知ったのは、4年ほど前。実は、「彼女の姿を描いた絵」を知るより前に、私は「彼女の姿を描いた絵」を知って、その絵のこと、その絵を描いた画家について、短い文章を書いた。いま、そんな経緯をこれ以上書くのは野暮だから省くが、「彼女の姿を描いた」画家の存在なくしては、木村了子と知り合うはずがなかった。

その「木村了子像」は、ドラキュラのように八重歯が突き出ている、その画像が脳裏にどうしようもなくこびりついたので、その後、いろんな局面で普通に会うこととなった彼女の八重歯は、突き出てはいなかった。「彼女の姿を描いた絵」は、もちろん歪曲されていた。そして、その歪曲をした張本人は、市井の絵描きとして、ここ数年、その才能を無駄遣いしながら、なんとか生きている。木村了子は、どうやらその市井の絵描きと、いまでも親密な付き合いをしているらしい。

ところで、こんな超コンサバな日本美術スタイルの舞台装置を背負ってポーズを決めるターザンの絵には、どんな想いが込められているのか。木村了子の、倒錯の産物なのか、それとも平常心の公約数なのか…なんの予備知識もない人にとっては、わかりづらいかもしれない。

ここで私が直言すれば、この絵は、彼女の平常心の公約

数以外のなにもものでもない。北京で、中国の人たちが何も知らずに絵を一見すれば、倒錯の産物だと思う人もあるだろうが、そんなことはない。数々の「龍虎図」を熟視し、「鰐虎図」を構想し、二人のターザンを銀屏風に描く彼女は、間違いなく、平常心を持続する、きわめつけの努力家である。

一瞬、倒錯的なメンタリティーがよぎることもあるかもしれないが、彼女はそれを自分で制御しつつ、パッと見としてはかなりお下劣な絵を、しれっと、でもしっかり描き続けている。そんな自分のことを、彼女はこう自己分析する。

「しばらくは男性を描いていきたいと思っています。ただ、今は露出的な表現より、さりげない色気に惹かれています。例えばジャニーズ<sup>[2]</sup>の男の子たちを見ると、みんな健康そうに一生懸命踊っているけれど、ファンの女の子たちに媚びる視線やしぐさがすごくいやらしいと思うんです。そんな女がグッとくる男性のセクシャルな部分を、健康的に描いていけたらなと思っています。」(「アートトップ」2008年3月号インタビューより)。

…などと言いながら、彼女は、そのジャニーズ系がオナニーしている姿を露骨に描いたり、肛門を突き出した女性の姿を妙にシンプルなアイコンとしたり、それこそ一見、倒錯なのか、平常心なのか、わからないような絵を描き続



我的蛋糕盘子—欧培拉 / Beauty of my Dish -Opera- 2005

けているのだが、そんな絵を果たして北京の方々はどう受けとめるのだろう。

日本語の「男子」というニュアンスが、はたして中国の人にはわかるだろうか。木村了子の絵は、「男子」(あるいは対概念としての「女子」)という対象を見据えたふるまいの産物である。単にジェンダー的に「男性」という意味ではなく、十代から二十代にかけてのどうしようもない性的な欲求に基づくふるまいを、社会的規範の中で熟成した、あっけないほどまともな「男子」の絵なのである。

彼女が、自分の脳裏に江戸時代以前の水墨画や彩色技法をさらに十全に摂りこんで、教えてくれる人もいない状態でもっと四苦八苦して、絢爛たる、しかしあくまで控えめな性愛を表現する、きわめつけの屏風を描いてくれたら、私は嬉しい。

やました・ゆうじ

1958年生まれ。美術史家、明治学院大学教授。専門は室町時代の水墨画だが、現代アートも含めた日本美術全般にエールを送る。著書に『水墨画入門』『日本美術の二〇世紀』他多数。独自の視点で、美術館の展覧会の企画や、監修などにも携わる。



白波图 / White Wave -Shiranami- 2005

[1] 狩野派

日本絵画史上最大の画派であり、室町時代中期(15世紀)から江戸時代末期(19世紀)まで、約400年にわたって活動し、常に画壇の中心にあった専門画家集団。その時々権力者と結び付いて常に画壇の中心を占め、内裏、城郭、大寺院などの障壁画から扇面などの小画面に至るまで、あらゆるジャンルの絵画を手掛ける職業画家集団として、

日本美術界に多大な影響を及ぼした。

[2] ジャニーズ

ジャニーズは日本の芸能プロダクション・ジャニーズ事務所の略称でもあり、ジャニーズ事務所所属タレントの総称。派生語として美少年を指す「ジャニーズ系」という言葉がある。



菊福图 / chrysanthemums 2005